

### 第三回 ブラジル長期派遣中間報告書

宍戸日向子

[はじめに]

ブラジルに来てから約半年が経過しました。

12月中旬から2月中旬までは大学の夏季休暇で、現在は実習をさせていただくためにトメアスーに滞在しております。

今回は夏季休暇の過ごし方や活動について、ご報告させていただきます。

[生活について]

夏季休暇が始まり、すぐに友人の実家の帰省に付き添わせてもらい、友人家族とクリスマスを楽しみました。ブラジルでは年明けよりもクリスマスが重要視されているようで、12月になると家やショッピングモールなどはその装飾でいっぱいになります。

クリスマス当日は家族と過ごすのが一般的です。ブラジルに家族がいない私に、何ヶ月も前から「クリスマスは誰と過ごすの？予定は決まってる？」と言ってくれる友人が何人かいて、クリスマスの重要性を知ると同時にブラジル人の人情深さも感じました。

パネトーネと呼ばれるチョコレートやナッツやドライフルーツが入った大きなパンを分けて食べたり、アミーゴセクレトと呼ばれるはプレゼント交換などをして、今までに経験したことのないクリスマスを楽しませていただきました。

クリスマスが終わり、その後の年明けも別の友人の家族に招待していただき、白や黄色のTシャツを着る文化に沿って祝いました。

[ニアグロでのインターンシップ]

1月12日から、2月1日までペトロリーナという街に滞在し、ニアグロという会社で三週間のインターンシップをさせていただきました。

ニアグロは、ニチレイフーズの子会社で、アセロラの商品（主に濃縮ジュースやピュレ）を生産し、主に海外へ販売をしている会社です。

アセロラは、日本では一般的でなく、どんな果物なのかあまりよく知られていませんが、実はとても栄養価が高く、レモンの30倍以上といわれる豊富なビタミンCや抗酸化物質のポリフェノールが含まれています。現在ではアセロラを使ったサプリメントやシャンプー、パウダーなどの商品も誕生してきていて、将来性がある果物です。

ペトロリーナの会社にある部署は原料、品質保証、業務課、製造、メンテナンス、環境、輸出、人事、財務と分かれています。

三週間の間にその全ての部署を回らせていただき、各部署で丁寧に仕事内容を説明していただきました。

契約農家の訪問や、NIQUISA（ニキーザ）と呼ばれる、アセロラの品種開発・研究を行っている施設見学、原料や製品の分析、工場見学などの食品に関わること以外にも、排水処理

や輸出販売、雇用管理、資産運用の仕組みについても学び、生産から加工、販売までの一連の流れを理解することができました。

さらに、ニアグロは恵まれない子供達が通う学校へのアセロラジュースの寄付や、道に現れるロバなどの動物の事故を防ぐために、生産の過程で除去されるアセロラの皮や種を餌として寄付しているというお話を聞いて、地域へ大いに貢献していることがわかりました。このインターンシップを終えて、1日では築くことのできない契約農家さんとの関係の深さや、品質・安全の為に徹底した分析や管理、部署間の連携、環境や地域と共存する姿勢が特に印象に残っています。

また、ここで働いていらっしゃる方々と関わらせていただいたことで、仕事に対しての自分の甘い考えに気づき、自分の言動や行動に責任を持ち、自立心を養うことは海外のみに関わらず、どこで働くにしても重要であると感じました。

このような貴重な機会を与えてくださった石山さん、平野さん、上原さんをはじめとしたニアグロの方々や、ニアグロを紹介してくださった先輩方には感謝してもしきれません。

#### [トメアスーでの実習]

現在、実習のためトメアスーに訪れており、大西さんのご自宅にお世話になっております。

トメアスーではピメンタやカカオを中心とした様々な熱帯作物を、アグロフォレストリーという農業と林業を合わせた方法で栽培されています。土地を有効活用した持続可能な農業で、ほぼ一年中作物を収穫することができます。

まだ実習の途中ですが、ブラジルの他の都市でも見ることがないアマゾン地域特有の作物の栽培方法を学ばせていただけて、とても興味深いです。それと同時に、農場の管理にかかるコストの高さや、作物の病気の多さに対し、出荷した作物にそれほど高価な値段はつかないという現実を知り、農業の厳しさも感じました。

また、地球の反対側からトメアスーという地へ移住されてきて、アグロフォレストリーの発展へ繋げた日本人の方々の様々な苦勞を知りました。大きな尊敬の念を抱くとともに、自分もその方々の意志の強さと覚悟を見習いたいと思いました。

この実習の後は3日間ベレンへ滞在し、UFRA 大学などを訪問する予定です。

#### [これからの計画]

二週間後にまた大学の授業が始まります。

私は前学期、聴講だけであればいくつかの授業に参加しました。しかし履修をしていたのは1科目のみで、言語の方にかなり時間をかけてしていました。来学期は興味のある教科をさらに履修し、大学で過ごす時間を有効的に過ごします。

また、友好関係の構築にも力を入れて、ブラジルの文化を肌で感じ、留学生生活を充実させます。

[おわりに]

この夏季休暇は、クリスマスパーティーから始まり、年明け、ニアグロでのインターンシップ、トメアスー・ベレンでの実習と、沢山の初体験をし、様々な人と出会い、私の人生で一番濃い期間になったと確信しております。

長いと思っていた夏季休暇も気付けば残りわずかとなり、これからは留学生活の後半が始まります。この休暇で学んだことを活かし、悔いの残らないよう、毎日を自発的な姿勢で過ごしていきます。



↑ニアグロの皆様との写真



↑契約農家でのアセロラ仕分けの様子



↑アグロフォレストリーで栽培しているカカオ



↑カカオの病気